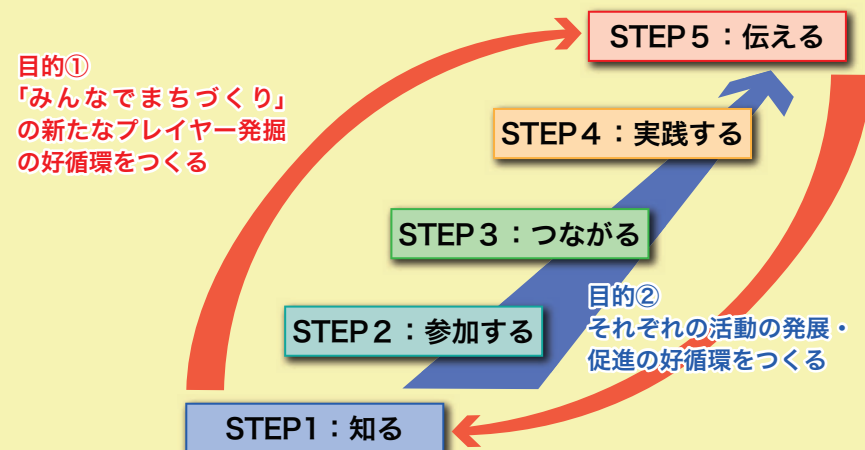


まちづくりにおけるあなたの位置を確認することから始めてみましょう。

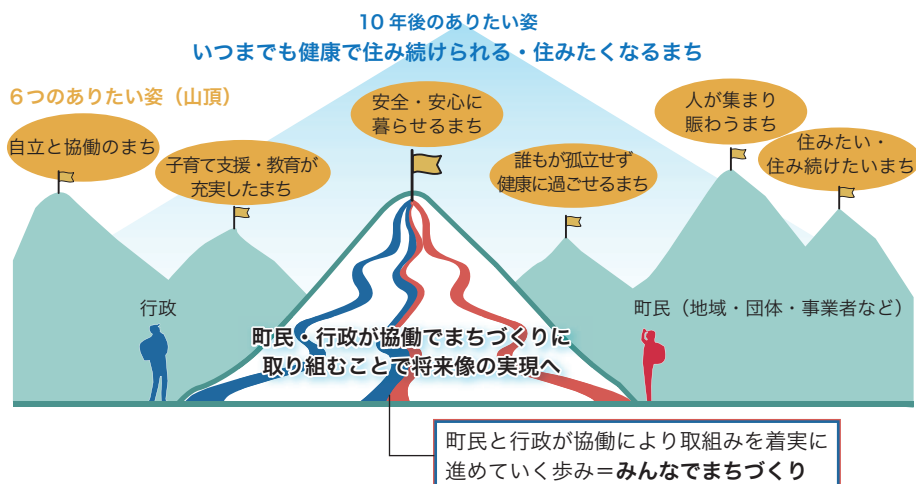
「みんなでまちづくり」の参画には5つのステップがあります。この指針では、
①「みんなでまちづくり」の新たなプレイヤー発掘の好循環をつくること、
②それぞれの活動の発展・促進の好循環をつくること、を目的としています。
まずは今の自分の現在地を確認し、みんなでステップアップしていきましょう。



STEP 1 知る

「みんなでまちづくり」とは？

10年後のありたい姿の実現に向けて、協働のまちづくりを推進していくための添田町独自の合言葉です。地域、団体、企業などを含む町民と行政と一緒に頂上を目指し、町外の添田ファンも巻き込みながら、取組みを着実に進めていきます。ありたい姿の実現を目指して、「みんなでまちづくり」を形にしていきましょう！



添田町のまちづくり活動を見てみよう



地域・学校・行政が連携した学習支援



保育園と地域合同の津野小学校運動会



アカザの保護を通じた河川清掃や青少年育成



英彦山周辺の歴史・文化の保全や活用



清掃活動などの地域貢献活動



町所有の遊休地を活用したキャンプ場運営

STEP 2 参加する

あなたの悩みはなんですか？

人口減少や少子高齢化が進む添田町では、みなさん一人ひとりが様々な悩みを抱えています。特に以下は、みなさんと力を合わせて取組んでいきたいテーマです。

農林業	観光	教育	健康
本町面積の大半を占める農地・山林の適切な管理・活用	地域経済の循環と地域活力の醸成	地域に根差した歴史・文化の継承、地域・経済を支える人財の育成	高齢者の活躍・健康寿命の延伸、日々の生活の安心

あなたの興味はなんですか？



地域の高齢者の居場所づくりに取り組む「添田東ふれあいサロン」



英彦山・落合地域の自然・歴史文化を伝える「英彦山こてんぐ塾」



イベントを通して林業振興や町外へのPR、教育にも寄与する「木もくまつり in そえだ」



添田駅前のにぎわいづくりを行う「駅前にぎわいマルシェ」

あなたの力を発揮するために

理解する

「みんなでまちづくり」を知ってもらうきっかけづくりを行います

プレイヤーを見つける・育てる

まちづくり活動に参加する人を増やし、主体的に参画するプレイヤーに育てます

場所・機会を増やす

まちづくり活動が活発化する環境をつくるとともに、活動をきっかけとした交流を促します

関係をつくる・深める

効率的・効果的な取組みを推進するために各主体の関係構築を行います

資金をつくる

公共的な課題を解決するための活動資金をつくります

情報を共有する

多くの人が情報を受け取ることで、できる機会を創出し、参画につながる情報発信を行います

添田町みんなでまちづくり指針 — 概要版 —

添田町では、第6次総合計画（令和2年度策定）に示す10年後のありたい姿「いつまでも健康で住み続けられる・住みたくなるまち」の実現を目指しています。

一方で、人口減少や少子高齢化に伴う担い手不足、地域活力の低迷、財源不足などの課題や、多様化するライフスタイル・価値観への対応が求められています。

これらの課題に立ち向かい、10年後のありたい姿を実現するために、より多くの方が「みんなでまちづくり」に参画していくことを目指し、指針を策定しました。

10年後のありたい姿（将来像）

いつまでも健康で住み続けられる・住みたくなるまち

誰もが孤立することなく健康で、持続可能な農林業や、人々の交流を生み出す観光などによる雇用創出を図り、豊かな自然環境のもと住み続けられる、住みたくなるまちをつくる

施策別のありたい姿

- 【定住・愛着】住みたい・住み続けたいまち
- 【稼ぐ・関係人口】人が集まり賑わうまち
- 【支え合い・助け合い】誰もが孤立せず健康に過ごせるまち
- 【安全・安心】安全・安心に暮らせるまち
- 【子育て・教育】子育て支援・教育が充実したまち
- 【関心・自立】自立と協働のまち

【発行・問い合わせ先】 添田町役場 総合企画財政課 政策企画係
TEL：0947-82-5964 FAX：0947-82-2869
Mail：kikaku@town.soeda.fukuoka.jp

STEP 3 つながる

新しい仲間を探すために

- まちづくりに関心のある誰もが参加できる開かれた場をつくり、担い手の発掘、活動の連携、新たなプロジェクトの生成につなげます



つながりで課題を解決しよう

- 地域の将来ビジョンにもとづき、地域内の主体・活動間の結びつきを強化します
- 新たなテーマ設定による異分野・団体の連携を促進させます
- 新たな母体の形成による地域型と目的型の活動の連携を図ります



地域の将来ビジョン策定のためのワークショップ（佐賀市）

「みんなでまちづくり」の推進体制

進捗管理や町の政策との調整、新たな人材の参画の枠組みをつくるため、以下の体制をつくり、実行性を高めます。

「(仮称) みんなでまちづくり推進協議会」

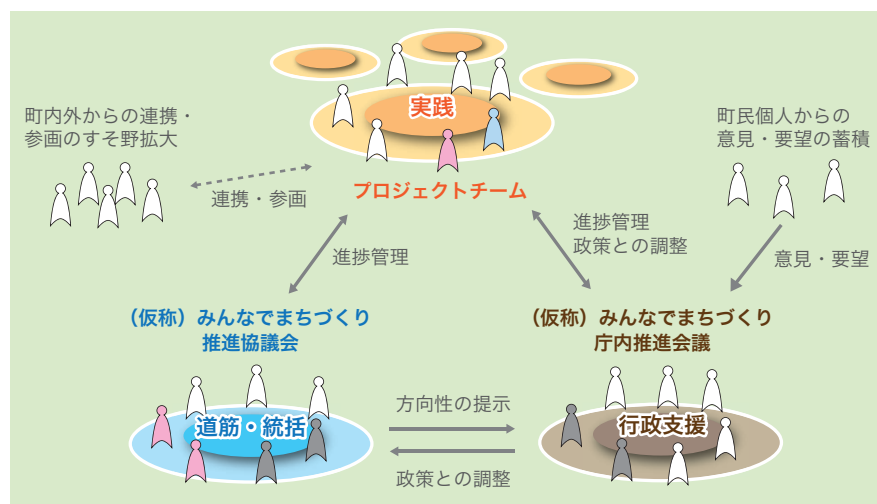
…「みんなでまちづくり」の道筋を示し全体を統括します

「(仮称) みんなでまちづくり庁内推進会議」

…行政支援のための庁内調整や予算・体制を確保します

「プロジェクトチーム」

…「みんなでまちづくり」を実践し、参画のすそ野を広げます



STEP 4 実践する

実践の場づくり

- 「何かをやりたい人」「手伝いたい人」をつなぐとともに、必要に応じて行政の担当窓口を紹介する等、みんなでまちづくりの総合拠点をつくります
- 地域の公民館や空き家、役場周辺と英彦山地域を中心とした地域の実践の拠点をつくります
- 道の駅等、集客施設を活用した町内外をつなぐ拠点をつくります



フューチャーセンターならしのHPより
フューチャーセンターならしの（習志野市）
市民・団体・学校・企業・行政の交流や
協働、対話を後押しするプラットフォーム



南仙荘（八女市）
空き家物件を活用したサテライトオフィス

モデルプロジェクトの実施

- プロジェクト立ち上げから企画、実行までの一連のプロセスを通して、「みんなでまちづくり」の小さな成功体験を積み重ねていくためのモデルプロジェクトを実施します
(下の2例は進め方のイメージとして示したものです)

(例1) 元気な体づくり応援プロジェクト

- ・高齢者の健康づくりを実践する地域が先進事例となり、他地域へノウハウを提供する取組み
- ・健康寿命の延長や地域内・地域間の世代間交流につなげ、行政は他分野での連携を支援する



添田東ふれあいサロンの様子

(例2) “英彦山の苔” 活用プロジェクト

- ・英彦山周辺の団体と地元、観光客と地元をつなぐ体験プログラムを実施する取組み
- ・将来的な関係人口増加や英彦山周辺での滞在時間延長、コミュニティビジネスなどにつなげる



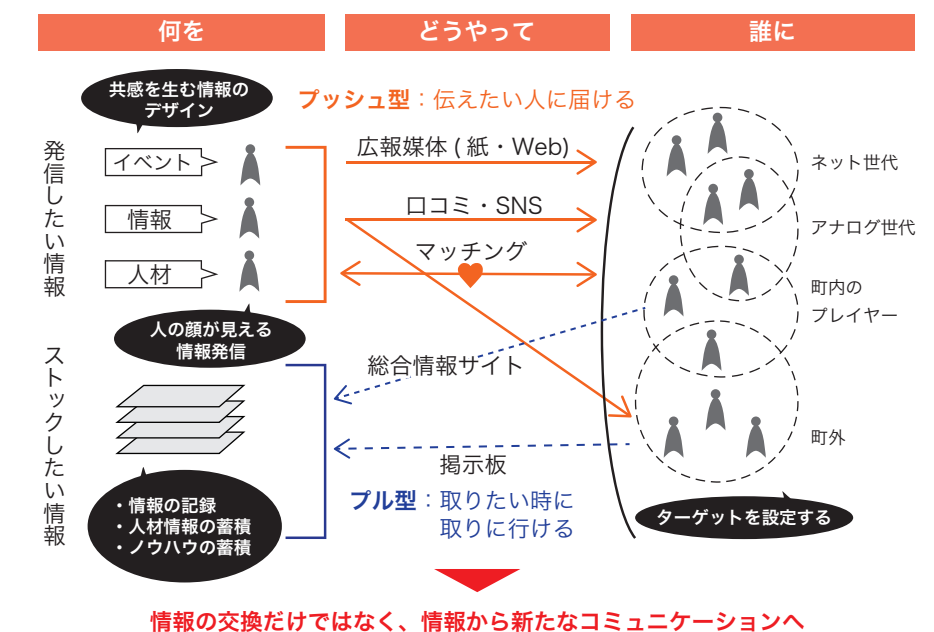
苔テラリウム体験の様子

STEP 5 伝える

情報発信の戦略（何を、誰に、どうやって伝えるか）

「みんなでまちづくり」のプレイヤーを増やしていくために、今後、以下3つの視点から情報発信戦略を検討していきます。

- 「何を」：人の顔が見えるなど、共感を生む情報をデザインします
- 「誰に」：届けたい情報に応じてターゲット設定を明確化します
- 「どうやって」：情報の目的とターゲットに応じて、効果的な手段の選択を行います



情報の交換だけではなく、情報から新たなコミュニケーションへ

情報発信の仕組みづくり

- まちづくりに関する各種情報の入口となるポータルサイトを構築することで、「みんなでまちづくり」の入口をつくります
- 観光拠点や地域団体、既存媒体と連携した、コミュニケーションや対話を育む情報発信の拠点づくりを行います
- 幅広い人が「みんなでまちづくり」の情報に自然と目に触れる機会の創出や、魅力あるコンテンツ・サービスの提供を行います



Mekuruto Facebook より
Mekuruto（久留米市）
ワークスペース、イベントスペース、飲食店
が一体となった情報発信拠点



情報発信ブース（福岡市）
商業施設のスペースを利用したパネル展示や
物販イベントスペース